

マラソンで国際交流

山本 雅樹

合衆国歌斉唱で異様な盛り上がりを見せるなか、初めての海外レースの雰囲気興奮をおぼえながらセントジョージマラソンがスタートしました。標高差約800mを駆け下りるという日本では考えられないような設定のコースに、自己ベストを狙った私は、前半のオーバーペースがたり、後半は足がポロポロ。タイムとしては満足な結果が残せませんでした。こんなに楽しんで走ることのできたマラソンは初めてでした。西部劇を思わせるような荒涼とした大地の中、走っていること自体を忘れるほどの景色に圧倒されていました。

沿道の市民はとても熱い声援をかけてくれます。また私が華麗なコスチュームで走っていたこともあって、多くのランナーから声をかけられました。「はるか日本から来たのかい？頑張つて！」(たぶんこんなことを話していたと思います。)こちらは何を言われても「サンキュー！」この一声だけで、国際親善には充分でした。

マラソン以外にもホストファミリーの方々、セントジョージ市のご好意で、日本では体験できないようなとても充実した毎日を過ごすことができました。

このマラソンを通じた揖斐川町とセントジョージ市の交流が今後も続けられ、揖斐川町が国際的な町として発展されることを期待いたします。最後に役場の関係者をはじめ揖斐川町の皆さんに感謝します。どうもありがとうございました。



セントジョージマラソンに参加して

高橋 寿子

セントジョージ市もホームステイも初めてで、言葉の壁もありましたが、セントジョージの人々の優しさと笑顔に接し、最高の思い出になりました。レースは10月1日(土)朝7時頃のスタートでした。1,500m余りの地点から下つていくコースで、朝日を浴びながら雄大な自然を眺めて走る景色は素晴らしいものでした。

9回目のフルマラソンでしたが、ハーフ地点まで走るのがやっとでした。しかし32km地点では、「あと、10kmしか走れない！」と心の中で叫んでいました。ゴールできたのは、皆さんのおかげです。

最後にこの交流会の関係者の方々、職場、家族、友人のすべてに感謝します。ありがとうございました。